

Title	家屋文鏡
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.2 (1927. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	口繪
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

家屋文鏡（徑七寸七分、諸陵寮藏）

高橋健自

この鏡は、大和國北葛城郡河合村大字佐味田の古墳から發掘されたもので、鏡背圖様の構成は、大體支那鏡と同様であるが、内區に於ける主要なる題材は、全然支那鏡に見ることの出來ない、日本独自の建築のみであることが注目に値する。

上部にあるのは壇輪にもある尋常の入母屋造、右はその原始型ともいふべき家根ばかりの家、左は床が高く階梯によつて昇降するその高級の家で、以上三者は我が入母屋造發達の歷程を示した映畫のやうなものである。而して下のは高い床に階梯のある切妻造で、我が最古の神社建築といはれる大社造と同式である。

（「日本原始繪畫」參照）

